



INTERVIEW 02



### それ、本当に仕方ない？ —“諦めない職場”をつくるために—

地域働き方・職場改革ワークショップに参加した、田村マネージャーと森下さん。

日々のマネジメントや現場での気づき、そしてワークショップを通じて見えてきた変化について伺いました。

なお、本ワークショップは、県内企業が働き方や職場環境を見直し、具体的な改善につなげていくことを目的に実施しています。

### 多様な働き方を現場でどう受け止めるか

—最近の職場環境について、どのように感じていますか？

田村さん：「男女の違いをあまり意識せずに働ける環境には、だいぶ近づいてきたと感じています。ただ、その分“配慮の質”は変わってきました。例えば匂いの問題ひとつ取っても、柔軟剤や香水などで相談が来ることもあります。以前なら表に出なかったようなことが、今はきちんと「声」として上がってくるようになりました。それ自体は良い変化ですが、マネジメントとしては難しさもあります」

森下さん：「当事者同士では言いにくいことも多くて、どうしても上司に相談が集まりがちです」

田村さん：「まずは自分で考えてほしい」と思う場面もありますが、“職場で起きたことだから職場で解決してほしい”という考え方も増えている。だからこそ、多様な価値観を受け止め続ける必要があると感じています」



2018年入社  
森下 綾奈さん



### 若手が見た現実と違和感

—森下さんはいかがですか？

森下さん：「まだ古い価値観が残っている現実には驚きました。昔ながらの指導のあり方については特に印象的でした。

ただ一方で、“言いたいことが言えなくなる環境”も違うと思っていて…そういう思考で育ってしまうのは凄く勿体ないなと思いましたね。その抑圧される部分って、どこかでどうしても出てきちゃいますし。

厳しさと自由のバランスは難しいと感じました」



### なぜ参加したのか？—「答え合わせ」

—今回のワークショップには、どのような思いで参加されましたか？

田村さん：「一言でいうと答え合わせです。自分たちが現場で感じている課題が、他の企業やこれから働く世代と比べてどうなのかを確かめたかった。会社としてどう受け止めていくべきか、そのヒントを得たいと思い参加しました」

### 仕方ないで終わらせないために

—印象に残ったことはありますか？

田村さん：「学生の中にも、“仕方ないよね”と諦めている人が意外と多かったことです。長時間労働や慣習的なルールなど、本来は見直されるべきことでも“そういうもの”と受け入れてしまっている。だからこそ、本質的に働き方を変えていくには、“労働者側が諦めない社会”をつくる必要があると感じました。



2009年入社/ マネージャー  
田村 友英さん





## 仕組みを“使えるもの”に変える

—具体的にどのような改善に取り組みましたか？

田村さん：「もともと衛生委員会という仕組みはありましたが、委員とその周りの人たちの意見に偏りがちでした。そこで、森下に頼んでより広く声を拾えるよう見直しました」

森下さん：「やってみて気づいたのは、“会社は受け入れる準備があったのに、こちらが出していなかった”ということです。声を上げることで、初めて仕組みが機能していると実感しました」

### 具体的な変化

- ・意見収集の仕組みを見直し、現場の声を可視化
- ・社員要望を踏まえた環境改善の検討が進行
- ・社内コミュニケーション施策の活用促進
- ・駐車場料金の見直しなど制度改善を実施

### 【参加前と参加後の変化】

課題認識：属人的だった → 組織として共有  
 意見収集：限られた場 → 幅広く収集  
 対応：個別対応 → 仕組みで対応

## 「許容」が組織を強くする

—今後に向けて取り組みたいことは？

田村さん：「キーワードは“許容”です。

以前は、地域や家庭の中で自然と支え合っていたことが、今は職場に求められる場面が増えてきていると感じています。

例えば、子育てや介護、ちょっとした体調の問題なども、昔であれば地域のつながりの中でカバーされていた部分がありました。

しかし、そうした支え合いの機能が弱くなっている今、職場がその一部を担う必要が出てきています。

その中で、“どこまで受け入れるのか”“どう支え合うのか”を考え続けることが、これからの組織には求められていると思います。

会社が社員を許容するだけでなく、社員同士もお互いを許容していく。支えられた人が、今度は誰かを支える——そうした循環が生まれることで、結果として組織全体が強くなるのではないかと考えています



## 「同じ課題を持つ企業へ」

—ひと言メッセージをお願いします

田村さん：「これからは、多様な条件で働く人を受け入れることが前提になります。だからこそ、“どこまで許容できるか”を考え続けることが重要です」

森下さん：「まずは一歩、声を上げてみる。そうした積み重ねが会社を変えるきっかけになると実感しました」

## 会社概要

corporate

会社名 トランスコスモス株式会社

代表 代表取締役共同社長 牟田 正明  
 代表取締役共同社長 神谷 健志

創立日 1985年（昭和60）6月18日

所在地 東京都豊島区東池袋3-1-1  
 サンシャイン60

事業内容 アウトソーシングサービス事業

（デジタルマーケティング、EC支援、コンタクトセンター、BPO等）

従業員数 71,416名（2025年9月末現在）



## 本取組実施拠点

・CXスクエア和歌山

（センター長：大崎 匡哉、所在地：和歌山市黒田39番地2号）